



新着本のお知らせ

本館（末吉）

【一般書】

『歴史はバーで作られる』 鯨 統一郎
 『バブルノタシナミ』 阿川 佐和子

【児童書】

『オレンジ色の不思議』 斎藤 洋
 『幽霊屋敷のアイツ』 川口 雅幸

【絵本】

『うし』 内田 麟太郎
 『妖怪美術館』 広瀬 克也

大 隅

【一般書】

『悪寒』 伊 岡 瞬
 『空に咲く恋』 福田 和代

【児童書】

『ボイジャーズ8』 D・J・マクヘイル
 『激流のサバイバル』 スウィートファクトリー

【絵本】

『すごいね！みんなの通学路』 ローズマリー・マカーニー
 『おともだちできた？』 恩田 陸

財 部

【一般書】

『間取りと妄想』 大竹 昭子
 『介護で使える言葉がけ シーン別実例 250』 尾渡 順子

【児童書】

『13歳は怖い』 池田 美代子
 『いえのおばけずかん』 斎藤 洋

【絵本】

『タコめし』 つきおかようた
 『バスていよいしょ』 重松 彌佐



児童

『もうひとつのワンダー』
 R・J・パラシオ



一般

『風と共にゆとりぬ』
 朝井 リョウ



一般

『ボクたちはみんな大人になれなかった』
 燃え殻



絵本

『マスク』
 福井 智

9月のおはなし会 ご案内

本館（末吉）

「ちゃいはな」

絵本の読み聞かせや手あそび歌
 毎週土曜日（2,9,16,23,30日）午後2時から

「おひぎでよんで」

お母さんのおひぎの上でおはなしを聞こう！遊ぼう！
 27日（水）午前11時から

「夢劇場」ぞうり作りとおはなし

24日（日）午後2時から

大隅

「トトロ」ぞうり作りとおはなし

10日（日）午後2時から

財部

「祝子（はふりこ）」

昔話やわらべうたを楽しむ
 16日（土）午前11時から

休館日

毎週月曜日・第3水曜日

毎月23日は
 10冊貸出の日

私のおすすめする本は、エリック・カールさんの本です。カールさんは絵本の魔術師といわれており、その鮮やかな貼り絵は、ずっと見ていても飽きることはありません。「パパ、お月さまとって！」は、絵本が上下に伸びたり左右に広がったりして、絵本の世界に引き込まれます。子どもだけでなく大人も楽しめる作品です。また大型絵本でも出版されており、末吉の図書館にも置かれていますので、是非手にとって楽しまれてはいかがでしょうか。



『パパ、お月さまとって！』
 エリック・カール

読み聞かせボランティア
 富田 理佐さん

とっておきの本、
 教えます。

教育委員会だより

学力日本一の秋田県へ行ってきました

曾於市教育委員会では、6月末に「ミドルリーダー先進地派遣研修」として曾於市内の小中学校の教員6人を全国学力・学習状況調査で毎年トップレベルの結果を出している秋田県に派遣しました。

秋田県は、昭和30年代に実施

された文科省による全国学力調査では、鹿児島県とともに全国最下位を低迷していた県でしたが、平成19年に再開された全国学力・学習状況調査では、常に全国トップレベルの学力を保持しています。

秋田県は、どのようにして子どもたちの学力を日本一のレベルまで引き上げてきたのか、その秘密を探るため、秋田県の小中学校を実際に視察してきました。

今回は、秋田県での研修視察の様子と成果を報告します。

どんな学校を訪問したのか？

今回の視察では、秋田市内にある大住小学校、山王中学校を訪問しました。両校とも児童生徒数が500人あまりの比較的大規模な学校ですが、研究指定校といった特別な学校ではなく、どこにでもあるごく普通の学校です。しかし、学力はいずれの学校も全国平均を上回る結果を出しています。

秋田の学力の秘密は？

【秘密 その1】

▽「秋田の子どもは、忘れ物が少ない」

訪問した大住小の校長先生によると、秋田の子



どもたちは、学習用具や宿題の忘れ物がほとんどないことを当たり前のように話されました。登校前に家庭で学習用具を点検し、必ず宿題を済ませておく習慣がどの子どももしっかり身に付いているといえます。秋田県では、学力向上に家庭の教育力が果たす役割が大きいといえます。

【秘密 その2】

▽「秋田の子どものノートは、とてもきれいな」

秋田の子どものノートの、とてもきれいな、どの子どももきれいな文字で書かれていて、内容もとても分かりやすく工夫されていました。これは、小学校低学年から中学校まで一貫して継続的なノート指導が行われている成果と思われる。

秋田県では、当たり前のことが、当たり前に行われており、これが高い学力の土台となっていることがわかりました。



秋田では、どんな授業が行われているのか？

▽「先生たちの授業の基本スタイルが同じ」

今回の訪問では、「秋田の探究型授業」と呼ばれる子どもたちが課題を立て、考え、学び合う授業を、小・中学校全学年で参観することができました。

秋田では、子どもたちに、自分の考えをしつかり持たせて、さらにグループ学習の中で意見交流を通して相互に高め合う「学び合い」のある授業に、どの学級でも積極的に取り組んでいます。

【授業の基本スタイル】

- 1 学習の見通しをもつ。
- 2 自分の考えをもつ。
- 3 ペアやグループ、集団で学び合う。
- 4 まとめる。
- 5 振り返る。

た。だから、教師が一方的にしゃべるだけの授業を見ることはありません。秋田の子どもたちが、「思考力・表現力」でも優れている理由は、ここにあります。また、授業の基

本スタイルを揃えることで、子どもたちは、担任の先生が変わっても安心して授業を受けることができるのだそうです。秋田県が不登校でも全国最少県なのもうなづけます。

よい授業はどのようにして生まれるのか？

▽「秋田の校内研究は、すごい！」

よい授業を実現するためには、先生方の授業力を高める必要があります。秋田県の学校では、授業力向上のために、どの学校も校内研究にたいへん力を注いでいます。研究授業による授業研究や小中学校による相互研修など、校種を超えて授業改善に取り組んでいます。



秋田の教育から学ぶこと

秋田の子どもたちが、全国学力調査で毎年トップクラスの学力を維持している理由は、

- ① 家庭教育がしっかりとれていること。
- ② 学習技能が継続的に指導されていること。
- ③ 「学び合い」授業が実践化されていること。
- ④ 授業力向上にすべての教師が取り組んでいることにあります。

これらのことは、秋田県だけでなく、鹿児島県でも行われている当たり前のことばかりですが、これを秋田県では、どの学校でも同じように徹底して取り組んでいます。

今回の視察を通して、秋田県の子どもの学力を支えているものは、鹿児島県と同様に、学校・家庭・地域の日々の地道な取組、とりわけ先生方の熱心な授業改善への積み重ねの結果であることを強く感じました。

この訪問で学んだことを、今後の曾於市の学校教育の充実に生かしていきたいと思っています。

